



第3回 国連防災世界会議

パブリックフォーラム 「市民協働と防災」 テーマ館事業

マチノワ

TOMODACHI から宮城へ 宮城から世界へ

これからの社会を担う高校生が考える被災地復興、まちづくりを発表します。
またメディアではなかなか報道されていない現地の生の声(Raw Voice)を届けます。本当の復興とは何なのか、今被災地が抱えている問題、愛する地元に何ができるのか…。

この機会に自分の住んでいる街を、もう1度見つめ直してみませんか？

■日時 2015年3月14日(土)

■場所 仙台市市民活動サポートセンター 6Fセミナーホール

仙台市青葉区一番町4丁目1-3 (TEL 022-212-3010)

■開場 12:30

■第1回 12:45~13:45

■ポスターセッション 13:45~14:15

■第2回 14:15~15:15 (各回いずれも同じ内容です)

☆参加費無料、申し込み不要☆

主催メンバー宮城県在住の高校生7人が考えた防災についてのプレゼンをします。

被災地3県の高校生がパネルディスカッション形式でそれぞれの想いを語ります。

是非、わたしたち高校生と一緒に東北の未来について考えてみませんか？

主催 防災からまちづくりを考える実行委員会

企画・運営 TOMODACHI RAW VOICE

(問い合わせ tomodachirawvoice@gmail.com または 022-273-9753 留守電)

協力 TOMODACHI サマー2014 ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム参加者

後援 及び 助成

(公財) U.S. JAPAN COUNCIL (米日カウンスル)

(公財) 東日本大震災復興支援財団

**TOMO
DACHI**

みんなでがんばろう●日本
公益財団法人東日本大震災復興支援財団

私たちは昨年夏、被災地の復興のためにアメリカのカリフォルニア州立大学バークレー校で、リーダーシップを学んできた高校生です。Y-PLAN（注1）をとおして学んできたことを地域のために活かしていきたいという強い想いを胸に、RAW VOICE（ローボイス：生の声）という被災地の声をオプラートに包まず、ありのままに発信していくことをコンセプトにした団体です。

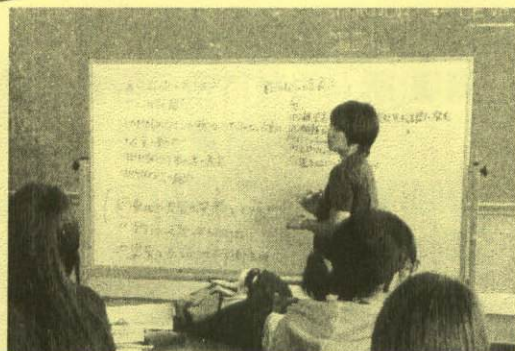
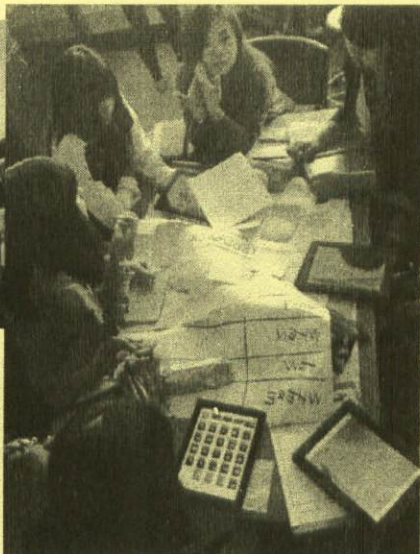
私たちを含めた東北の高校生の思い、実際に足を運んで取材して受け取った被災地の方々の思いをありのままにお伝えしたいと思います。「**高校生だからできる**」ことがあるのです。皆さんにも高校生の力や輝きを感じてもらいたいです。当日は、岩手、福島の高校生も参加します！ご来場お待ちしております。

都市計画関係の方へ

あなたの街づくりの計画に、高校生の声反映されているでしょうか？ 近い将来を担う高校生の考えも聞くことが、若者が「この町に住みたいから、この町で仕事を創ろう」と思うのではないのでしょうか？

教育関係の方へ

高校生が、アメリカの「プロジェクトメソッド」学習で、何を学んだか、主体的に考えて行動を起こした学習の成果を聞き、4月からの授業に、社会教育プログラムに生かしてみませんか？



キーワードは
『高校生革命』です

子どもに関わる方へ

子どもの権利条約にある「子どもの社会参画」、「意見を言う権利」を、どこまで実現しているでしょうか？高校生が学んだ Y-PLAN、地域の実態を見てどんなまちにしたいと思ったのか、何を考えているのかを聞いてください。そして、高校生の主体として動ける力を見てください。

注1：Y-PLAN とは

教育を通してより公平で持続可能な地域社会を実現することを使命とする Center For Cities and Schools（都市および学校教育研究センター）が開発した教育プログラム Y-PLAN（Youth, [若者] Plan, [計画] Learn [学ぶ], Act [行動する], Now [今]）。現在までに、全米9都市、世界8カ国で実施されてきました。それぞれの地域が抱える課題によって、Y-PLANの切り口は異なりますが、学校や生徒一人一人のニーズに合わせて、コミュニケーション力、チームワーク、データ分析力、批判的思考力、観察力、アイデアをまとめる力、創造力、市民意識などを養っていきます。「**学ぶことは、（社会を変える）力になる**」実体験は、その後の学習への原動力にも、主体的な市民の育成にもつながります。

基本的なプロセス…5ステップ ①コミュニティの強みや改善すべき点を明らかにし、ゴールまでの道筋を確認する。 ②地図作成、聞き取りなどを通して、自分たちの地域社会を良く知る。 ③事例を集め、アイデアを出し合い、明確なビジョンにしていく。 ④自分たちの考え、提案を公なものにし、インパクトを最大化していく。 ⑤成果を振り返り、今後につなげる。